

# 阪神高速事業アドバイザー会議 〔第17回〕

## 「2023年度決算報告」

2024年11月27日  
阪神高速道路株式会社

1. 2023年度決算概要 ……2
2. 関連事業セグメント別収益 ……7
3. 中期経営計画(2023～2025)における2023年度達成状況 ……9  
(阪神高速グループ サステナビリティレポート2024より)

# 1. 2023年度決算概要

## 当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 **2,528億円**（前年同期比+26億円）、営業利益 **40億円**（前年同期比+16億円）、経常利益 **42億円**（前年同期比+17億円）、親会社株主に帰属する当期純利益は **25億円**（前年同期比+7億円）となりました。事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

### 高速道路事業

- ◆ **料金収入**は1,782億円（前年同期比0.8%増）  
※通行台数が回復し、前年同期を上回りました。
- ◆ **道路資産完成高**は522億円（前年同期比3.3%減）
- ◆ **道路資産賃借料**は1,312億円（前年同期比0.2%減）
- ◆ **管理費用**は447億円（前年同期比0.5%増）
- ◆ この結果、  
**営業収益**は2,312億円（前年同期比0.1%減）  
**営業費用**は2,283億円（前年同期比0.8%減）  
**営業利益**は29億円（前年同期比105.9%増）  
となりました。

### 受託事業

- ◆ 国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の事業を受託したことにより、  
**営業収益**は154億円（前年同期比17.9%増）  
**営業費用**は155億円（前年同期比17.9%増）
- ◆ この結果、**営業損失**は67百万円  
（前年同期は営業損失63百万円）となりました。

### その他の事業

- ◆ 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、  
**営業収益**は64億円（前年同期比9.1%増）  
**営業費用**は52億円（前年同期比7.1%増）
- ◆ この結果、**営業利益**は12億円  
（前年同期比18.5%増）となりました。

# 1. 2023年度決算概要

## 高速道路事業

単位：億円(単位未満切捨て)

### 主な増減内容

区 分		2024年3月期	2023年3月期	増減
営業収益	料金収入	1,782	1,768	+14
	道路資産完成高 (注)1	522	540	▲17
	その他売上	7	6	+1
		<b>2,312</b>	<b>2,315</b>	<b>▲2</b>
営業費用	道路資産賃借料	1,312	1,315	▲2
	道路資産完成原価 (注)1	523	540	▲17
	管理費用	447	445	+2
		<b>2,283</b>	<b>2,300</b>	<b>▲17</b>
高速道路事業 営業利益 (注)2		<b>29</b>	<b>14</b>	<b>+14</b>

- 営業収益
  - ・通行台数が回復し、一日当たり約71.4万台 (前年同期比1.0%増)
  - ・料金収入は1,782億円 (前年同期比14億円増)
  - ・道路資産完成高は、前期の大和川線事業完了に伴う反動等により、前年同期比17億円減の522億円

- 営業費用
  - ・協定に基づく道路資産賃借料は、前年同期比2億円減の1,312億円
  - ・管理費用は、前年同期比2億円増の447億円

(注) 1 道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

(注) 2 高速道路事業の営業利益には、高速道路事業の利益剰余金を活用した、安全対策やサービス高度化に資する事業に伴う損失が含まれております。

# 1. 2023年度決算概要

## 関連事業

単位：億円(単位未満切捨て)

### 主な増減内容

区 分		2024年3月期	2023年3月期	増減
受託事業	営業収益	154	131	+23
	営業費用	155	131	+23
	営業利益	▲ 0	▲ 0	▲ 0
その他の事業	営業収益	64	59	+5
	営業費用	52	48	+3
	営業利益	12	10	+1
関連事業 営業利益		11	9	+1

#### ●受託事業

大阪市道高速道路淀川左岸線に係る工事出来高の増等により、  
 営業収益は前年同期比23億円増の154億円、  
 営業費用は前年同期比23億円増の155億円となり、  
 営業損失は67百万円  
 (前年同期は営業損失63百万円)

#### ●その他の事業

休憩施設の運営、駐車場施設の運営、  
 道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、  
 営業収益は前年同期比5億円増の64億円、  
 営業費用は前年同期比3億円増の52億円となり、  
 営業利益は12億円  
 (前年同期比1億円の増)

## 当期連結財務諸表の概要

単位：億円(単位未満切捨て)

### 連結貸借対照表

区 分	2024年3月期	2023年3月期	増減
資産の部	2,501	2,523	▲ 21
流動資産	1,977	1,998	▲ 20
（うち仕掛道路資産）	1,043	769	+274
固定資産	524	524	▲ 0
負債の部	1,875	1,932	▲ 56
流動負債	474	406	+68
固定負債	1,400	1,525	▲ 124
純資産の部	625	590	+35
株主資本	632	607	+25
資本金	100	100	-
資本剰余金	105	105	-
利益剰余金	427	401	+25
その他の包括利益累計額	▲ 7	▲ 16	+9

### 連結損益計算書

区 分	2024年3月期	2023年3月期	増減
営業収益	2,528	2,501	+26
営業費用	2,487	2,478	+9
営業利益	40	23	+16
営業外収益	1	1	+0
営業外費用	0	0	▲ 0
経常利益	42	25	+17
特別利益	0	0	▲ 0
特別損失	0	0	▲ 0
税金等調整前当期純利益	41	25	+16
法人税等	16	7	+8
親会社株主に帰属する 当期純利益	25	17	+7

# 〔参考〕 阪神高速の交通量・料金収入の状況【2024年度上期】

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計
交通量(台/日) 〔2023年度同期比〕	709,969 〔100.8%〕	705,887 〔103.6%〕	707,796 〔100.0%〕	739,766 〔102.4%〕	714,596 〔99.0%〕	734,949 〔100.6%〕	718,848 〔101.0%〕
料金収入【税抜】 (百万円) 〔2023年度同期比〕	14,349 〔99.1%〕	14,936 〔103.5%〕	14,994 〔103.6%〕	16,103 〔105.2%〕	15,773 〔102.8%〕	15,555 〔103.5%〕	91,712 〔103.0%〕
ETC利用率	96.8%	96.8%	97.1%	97.1%	97.1%	97.1%	—

## 〔交通量〕

- ・今年度上半期の交通量は71.9万台 前年度比101.0%と堅調に推移しております。  
料金改定後の6月～9月の通行台数累計は対前年度比100.5%と概ね横ばいとなっております。

## 〔料金収入〕

- ・今年度上半期の料金収入は917.1億円 前年度比103.0%となっており、前年度を上回る水準で推移しております。

## 〔その他〕

- ・2022/6/1～ 14号松原線 喜連瓜破⇔三宅JCT間における約3年間の通行止め中

## 【特異事象】

### 2023年度

- 5月19日～6月7日 3号神戸線(京橋～摩耶)でリニューアル工事により通行止め
- 8月15日 湾岸線の全線及び2号淀川左岸線・6号大和川線・16号大阪港線の一部区間で台風10号の影響により一時通行止め

### 2024年度

- 4月16日～4月26日 4号湾岸線(大浜～泉大津)でリニューアル工事により通行止め
- 8月27日～9月1日 台風10号の接近により長期間にわたる影響が発生

# 3. 中期経営計画(2023~2025)における2023年度達成状況

阪神高速グループは、2023年4月に中期経営計画(2023~2025)を策定し、阪神高速グループビジョン2030「6つのありたい姿」ごとに、施策に取り組んでいます。

## 「6つのありたい姿」と大阪・関西万博に対する取り組み

阪神高速グループ サステナビリティレポート2024より

### 1 最高の安全と安心を提供する阪神高速

- ◆ リニューアルプロジェクトの着実な推進 ◆ 災害に強い阪神高速
- ◆ 交通安全対策・良好な走行環境の確保
- ◆ より合理的で効率的な維持管理の実施



2023年度実績 / 2025年度目標		
死傷事故率	快適走行路面率	橋梁・トンネル・附属物の点検実施率
14.0 / 10.0 件/便台km 件/便台km	95 / 97 % %	100 / 100 % %

### 4 お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速

- ◆ 関西の発展に向けた多彩な事業の展開
- ◆ 国際事業の推進



2023年度実績 / 2025年度目標			
関連事業の営業収益(連結)		関連事業の営業利益率(連結)	
64 / 60 億円 億円		19 / 14 % %	

### 2 もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速

- ◆ ネットワーク整備の推進 ◆ 新しい技術を活用した渋滞対策の推進
- ◆ ETC専用化の推進
- ◆ お客さまにわかりやすい情報提供と新たなサービスの展開
- ◆ パーキングエリアの快適性・利便性の向上



2023年度実績 / 2025年度目標		
渋滞損失時間	ETC専用料金所	各PAの提供サービス
1,019 / 870 万台・時 万台・時	13 / 110 カ所 カ所程度	4.1 / 4.3 (お客さま満足度: 5段階評価)

### 5 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速

- ◆ 社会経済活動の活性化や都市構造の強靱化
- ◆ 環境経営推進・脱炭素社会への挑戦
- ◆ 地域との連携・地域社会の活性化
- ◆ 社会貢献活動



2023年度実績 / 2025年度目標	
道路照明のLED化によるCO <sub>2</sub> 排出削減量	
108.5 / 62.2 t-CO <sub>2</sub> t-CO <sub>2</sub>	

### 3 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

- ◆ 大規模プロジェクトなどのハード技術の開発
- ◆ シームレスで高度なインフラマネジメントの推進
- ◆ 将来を見据えた新たな技術の開発
- ◆ パーソナライズされた安全・安心・快適なモビリティサービスの実現
- ◆ 卓越した技術力・ノウハウの強化



### 6 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速

- ◆ ステークホルダーの声を反映した経営と信頼性の向上
- ◆ 働きがいを実感できる働き方改革・ダイバーシティ&インクルージョンの推進



2023年度実績 / 2025年度目標		
お客さま総合満足度 4.0 / 4.0 (お客さま満足度: 5段階評価)	女性採用 3 / 4 割 割	男性の育休取得率 104.4 / 100 % %

## 大阪・関西万博に貢献し、未来社会を描く阪神高速

- 交通円滑化への貢献
- パーキングエリアでのインバウンド対応などのパーソナルサービス
- 大阪・関西万博の機運醸成につながる地域のにぎわい創出
- 新たなプロジェクトへのチャレンジによる価値の創造